

生物礁とは、炭酸カルシウムの殻や骨格を有する生物が累々と重なって海面近くまで達した構造物を指します。現在の熱帯海域に広がるサンゴ礁は、その典型例です。このシンポジウムでは、地質時代の生物礁に関する従来の見解および最先端研究、サンゴに記録された近現代の環境変化、温暖化ワールドのサンゴ礁を話題とします。

- ① 古生代：微生物の礁から骨格生物の礁への転換 [足立奈津子, 大阪公立大]
- ② 中生代：中東湾岸地域の白亜系炭酸塩プラットフォーム堆積物—巨大油田を形成する絶滅した生物たち— [山本和幸, INPEX]
- ③ 新生代：温暖期に繁栄した星砂の仲間（有孔虫） [藤田和彦, 琉球大]
- ④ 第四紀：琉球列島に分布する第四紀石灰岩—総説— [井龍康文, 東北大]
- ⑤ 近現代：サンゴ年輪に刻まれた気候変動と人間活動の記録—産業革命から今日まで— [浅海竜司, 東北大]
- ⑥ 人新世：人新世のサンゴ礁は、どうなってる？ [山野博哉, 国立環境研究所]

# 公開シンポジウム 生物礁 いろいろな時代, さまざまな生物

2023年 参加費無料  
11月26日(日)  
会場: 9:00 ~ 12:30  
東北大学大学院理学研究科  
大講義棟